

福岡市の特性について

<目次>

1. 福岡市の概況	1
(1) 市域概要	
(2) 人口	
(3) 経済活動	
(4) 土地利用	
(5) 建物用途構成	
(6) 気象状況	
(7) まちづくり	
2. エネルギー消費量とCO2排出量、水消費量	19
(1) エネルギー消費量の推移	
(2) CO2 排出量の推移	
(3) CO2 排出量の将来予測	
(4) 水消費量	
3. 福岡市の環境・エネルギー施策	25
(1) 省エネルギー・新エネルギー関連計画等	
(2) 省エネルギー・新エネルギー関連指針等	
(3) 省エネルギー・新エネルギー関連事業等	
(4) その他	
4. 再生可能エネルギーの賦存量・利用可能量ならびに導入状況	34
(1) 太陽エネルギー	
(2) 風力エネルギー	
(3) バイオマスエネルギー・廃棄物エネルギー	
(4) 小水力エネルギー	
(5) 温度差エネルギー	
(6) 高効率エネルギー利用	
(7) 次世代自動車利用	
(8) まとめ	
5. 福岡市の特性と課題	53

1. 福岡市の概況

(1) 市域概要

- ・福岡市は市域面積約 341km²、人口約 148 万人を擁する九州の中核都市である。新幹線や高速道路など国内広域交通軸のほか、福岡空港や博多港など、国際ネットワークの拠点となる施設も整備されている。博多湾を取り囲むように市街地が広がっており、その中心に都心部が位置する。
- ・大都市でありながら、脊振・三郡山系などの市街地の背景となる山並みとそこから市街地に伸びる森林や、博多湾の島々や海岸線、山並みと博多湾を結ぶ河川など、豊かな自然を身近に感じられる都市である。



図 福岡市区分図



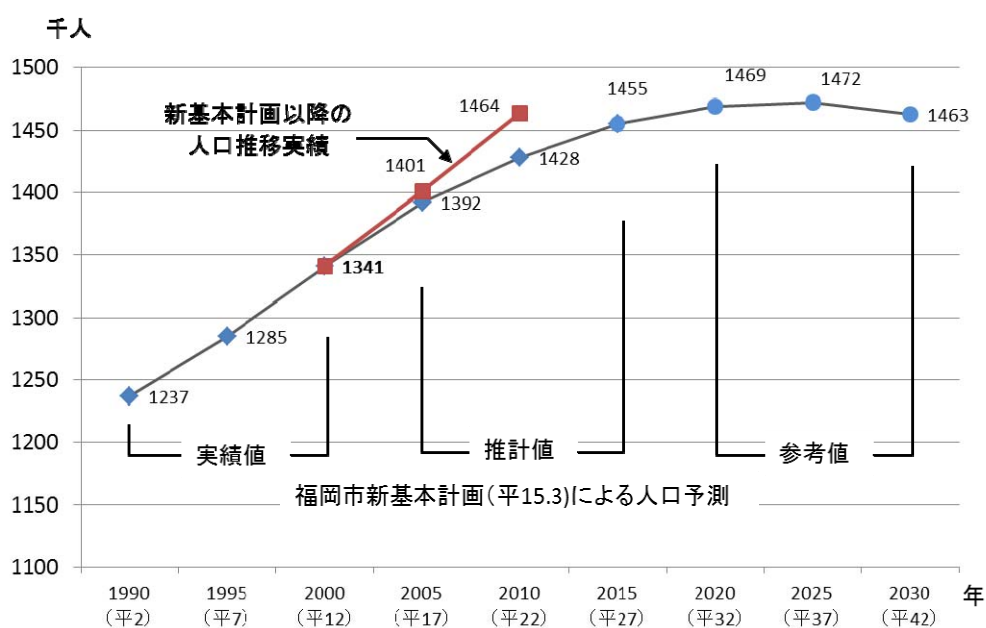
図 福岡市市域図

(2) 人口

- ・福岡市の人口は年々増加しており、平成 23 年 3 月 1 日現在（推計）で、1,467,664 人、世帯数は 710,572 世帯である。
- ・最近 5 年間の人口増加は年間 1 万人から 1 万 3 千人で、増加率は 0.7~1.0%程度である。
- ・平成 14 年度に行われた将来人口推計では、平成 22 年の人口を 1,428 千人と推計していたが、平成 22 年には推計値を上回る 1,463 千人に増加している。
- ・若者率と女性の割合は 12 大都市中 1 位である。
- ・人口は増加傾向にあるが、高齢者が急増し生産年齢人口と年少人口の割合は減少し、人口のピークより前に、生産年齢人口の減少が始まることを見込まれている。

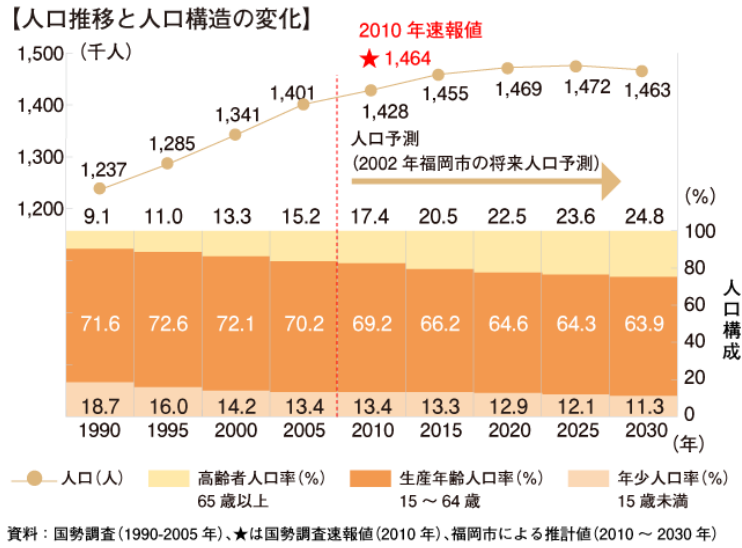
表 人口、世帯数の推移（実績値）

	人口（人）	世帯数（世帯）	備考
1990（平成 2）年	1,237,062	490,915	国勢調査
1995（平成 7）年	1,284,795	544,145	国勢調査
2000（平成 12）年	1,341,470	599,989	国勢調査
2005（平成 17）年	1,401,279	649,138	国勢調査
2010（平成 22）年	1,463,826	708,027	10/1 現在推計
2011（平成 23）年	1,467,664	710,572	3/1 現在推計



資料：「新基本計画」における人口予測に、2005年、2010年の実績値を追記

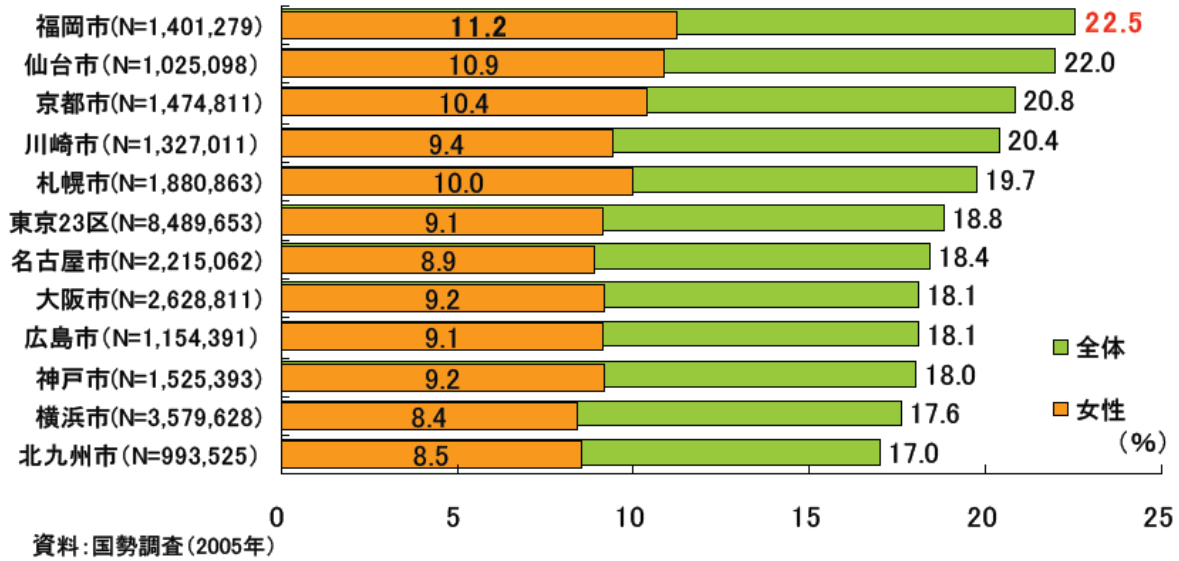
図 新基本計画における人口予測とその後の実績値の比較



出典：福岡市資料

図 人口推移と人口構造の変化

12大都市の総人口に占める若者率(15歳～29歳)と女性の割合

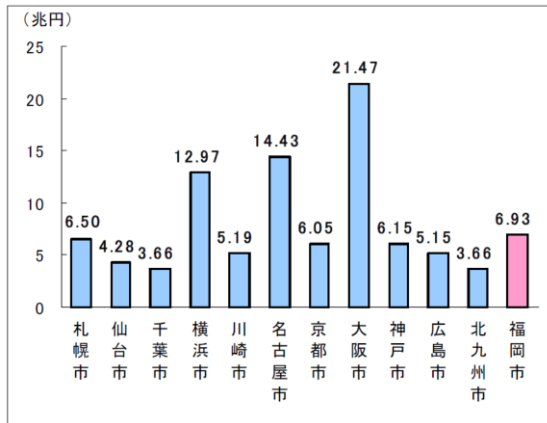


出典：福岡市資料

図 12大都市の総人口に占める若者率(15歳～29歳)と女性の割合

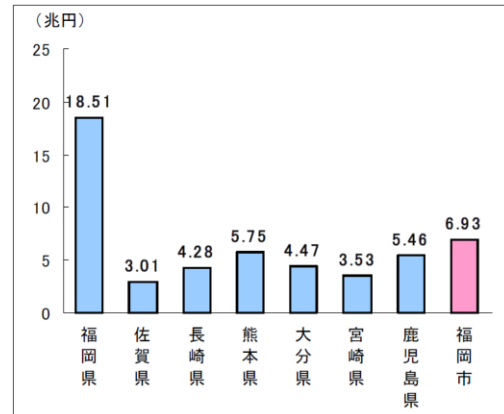
(3) 経済活動

- ・福岡市の平成19年度の市内総生産は約6兆9,295億円で、対前年度増加率は2.4%増となっている。
- ・主な政令指定都市と比較すると、市内総生産額は大阪市、名古屋市、横浜市について第4位である。九州においては、福岡市は他県を上回る域内総生産の規模を有する。
- ・産業別にみると、卸売・小売業、サービス業の割合が高い。



出所：各市webサイト

出典：「福岡市経済の概況」(平23.3 経済振興局)

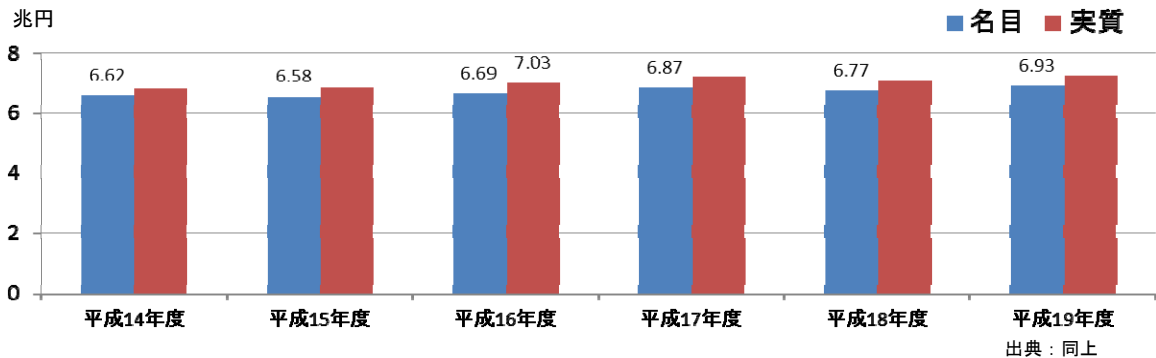


出所：内閣府「県民経済計算」

出典：同左

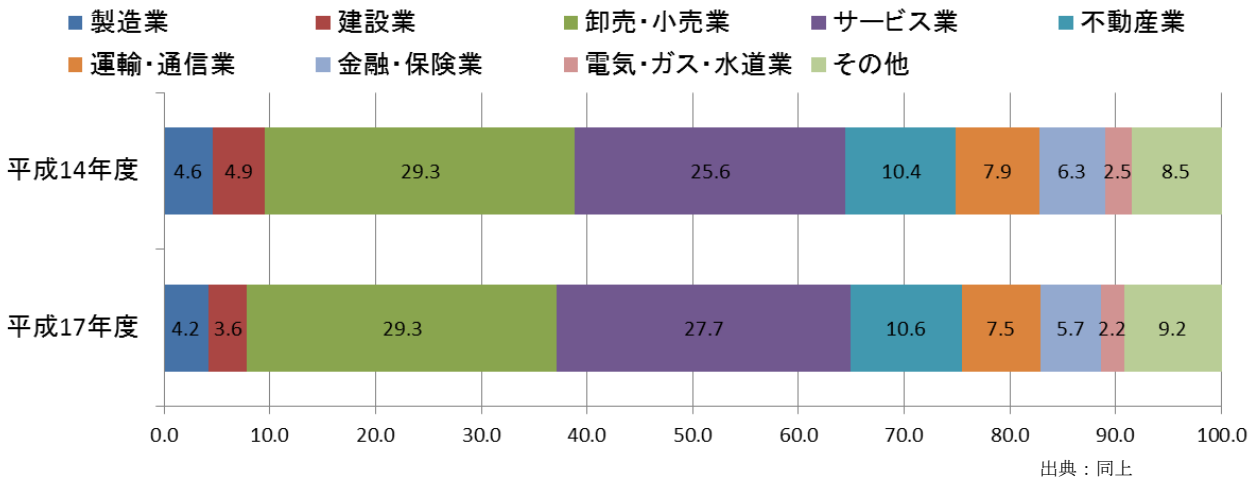
図 主な政令指定都市の市内総生産 (平成19年度)

図 九州における域内総生産 (平成19年度)



出典：同上

図 福岡市の市内総生産の推移



出典：同上

図 福岡市の市内総生産 (名目)における経済活動別構成比の推移

(注：グラフには表示されていないが、第一次産業は14年度0.2%、19年度0.1%である。)

(4) 土地利用

・福岡市の都市構造は、Y字型をなしており、天神・博多駅等の中心部に商業・業務施設が集積している。平成20年の土地利用状況は、森林33.3%、公園・緑地、道路等20.1%、住宅地19.7%、農地8.6%となっている。農地、森林等の自然的土地利用は41.9%を占めるが、宅地需要の増加等により、今後とも減少傾向を示すと予測される。

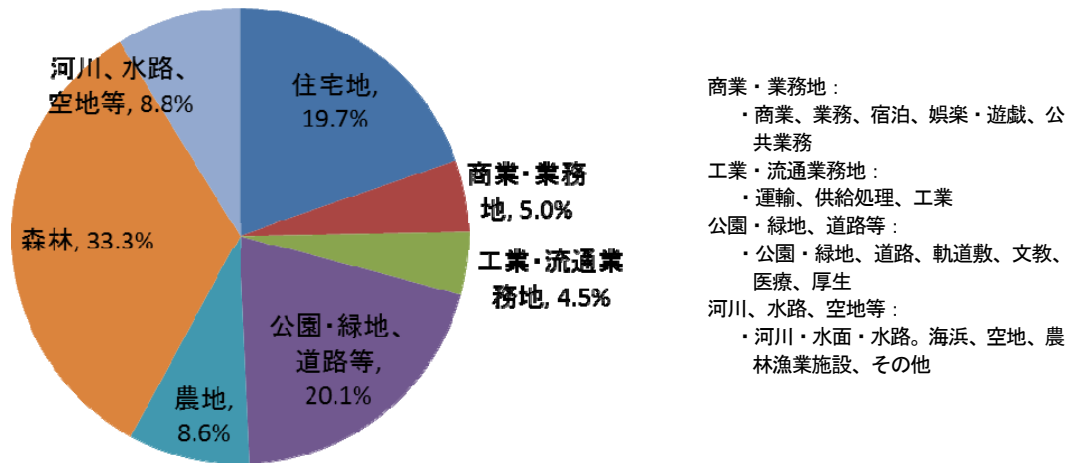


図 土地利用の構成比

・一方、都市計画に基づく地域指定の状況は、平成22年1月25日現在、都市計画区域33,988ha、うち市街化区域が16,114ha(47.4%)、市街化調整区域が17,874ha(52.6%)となっている。市街化区域における用途地域の指定状況は、住居系地域11,746ha(72.9%)、商業系1,786ha(11.1%)、工業系地域2,582ha(16.0%)となっている。

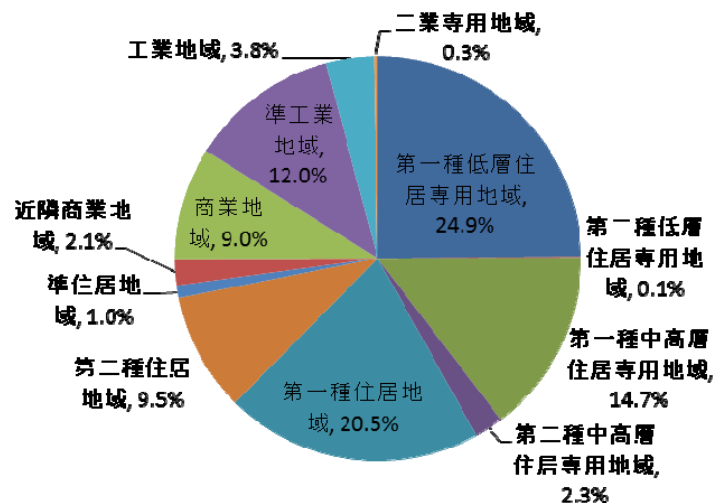


図 都市計画用途地域の構成

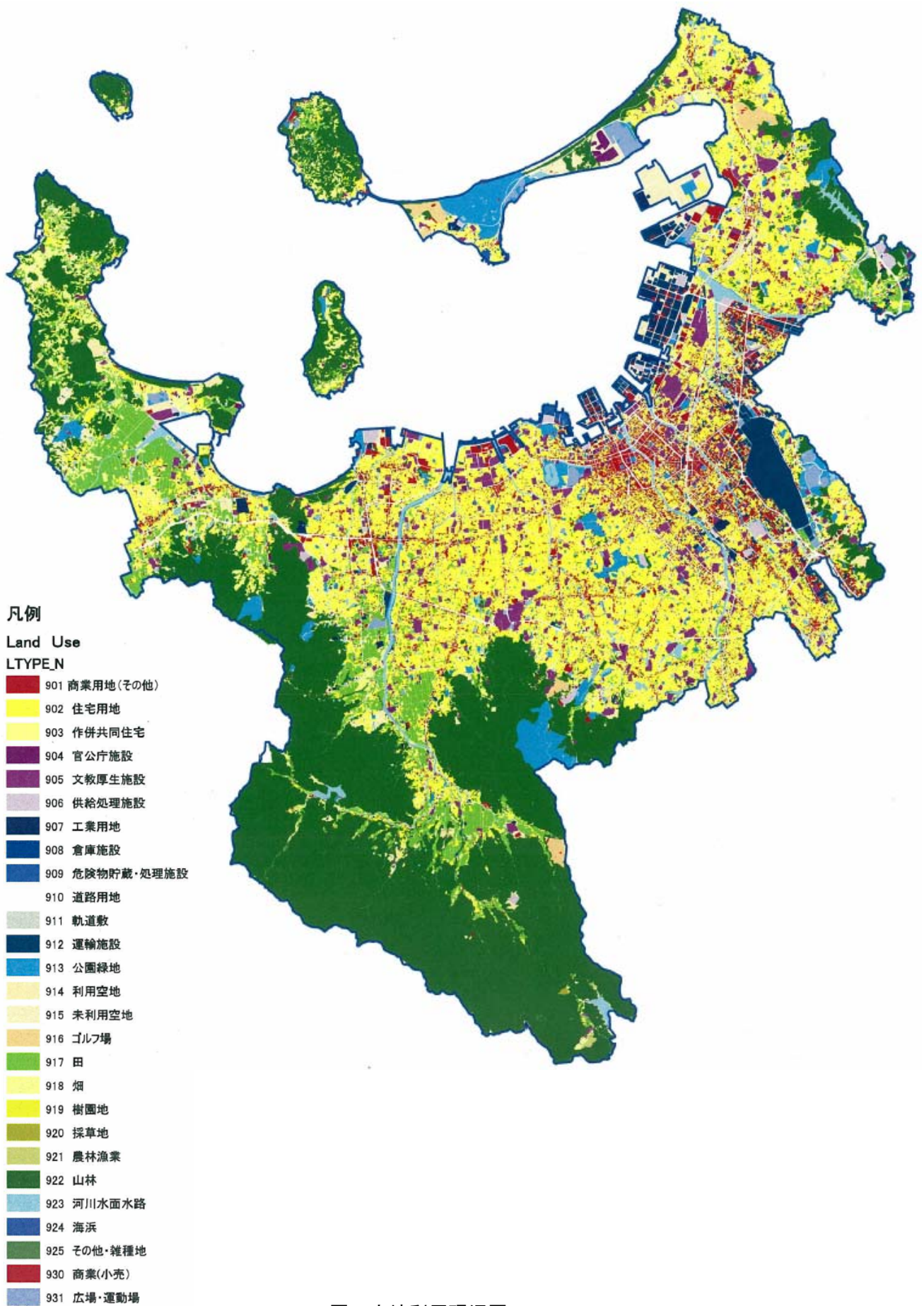
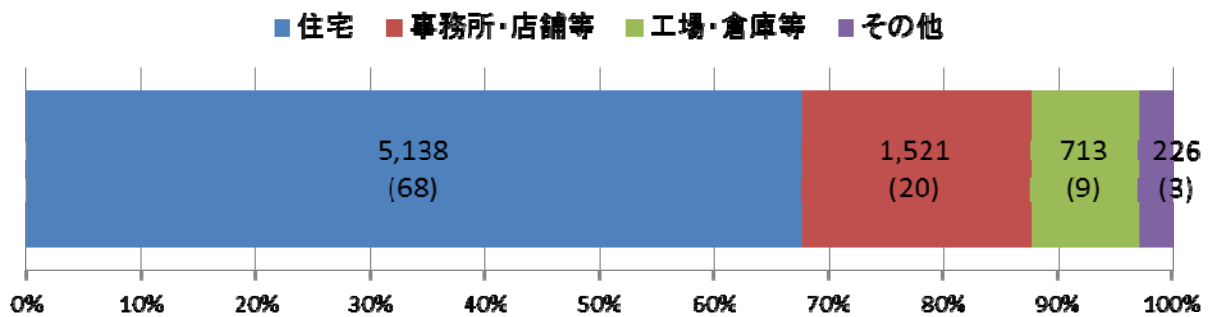


図 土地利用現況図

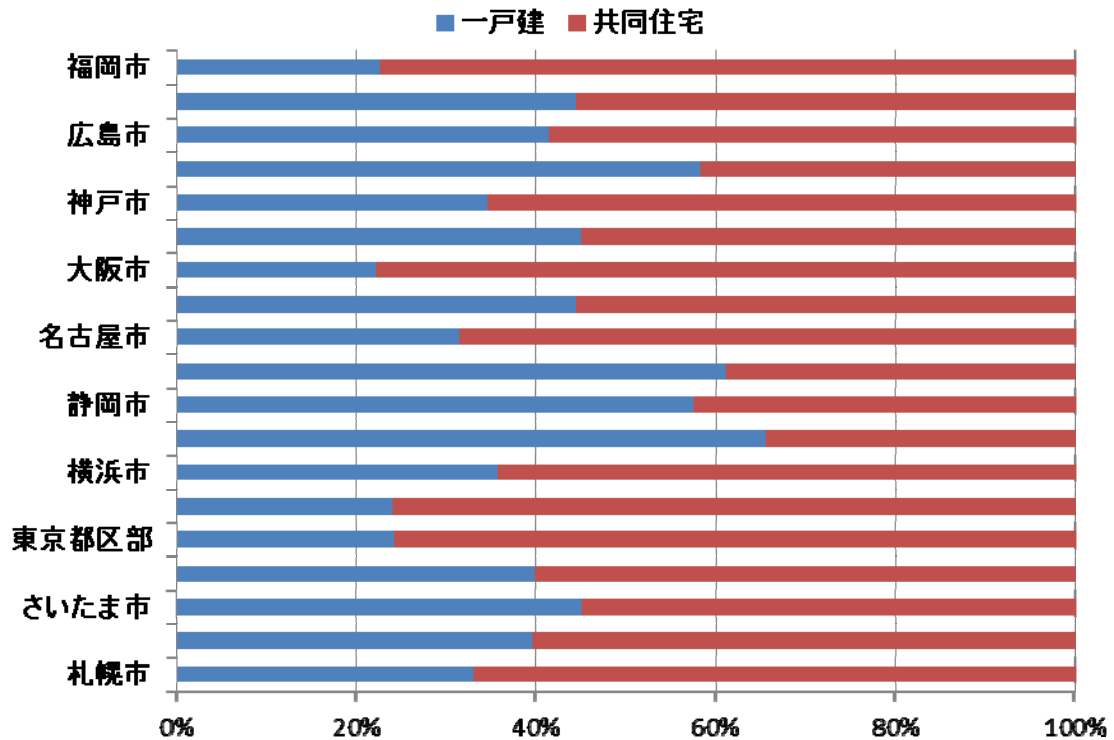
(5) 建物用途構成

- ・既存建物床面積の用途構成では、68%を住宅が占める。次いで事務所・店舗等が20%、工場・倉庫等が9%を占める。
- ・住宅床面積について戸建住宅と集合住宅の割合をみると、福岡市では戸建住宅が約23%であり、他の大都市と比較すると低く、相対的に集合住宅の割合が高いのが特徴である。
- ・着工建物の床面積は平成20年度で1,888千㎡、平成21年度で1,332千㎡である。平成20年度から21年度には、着工建物床面積は大きく減少しているが、既存建物と同様いずれも専用住宅が約60%を占める。



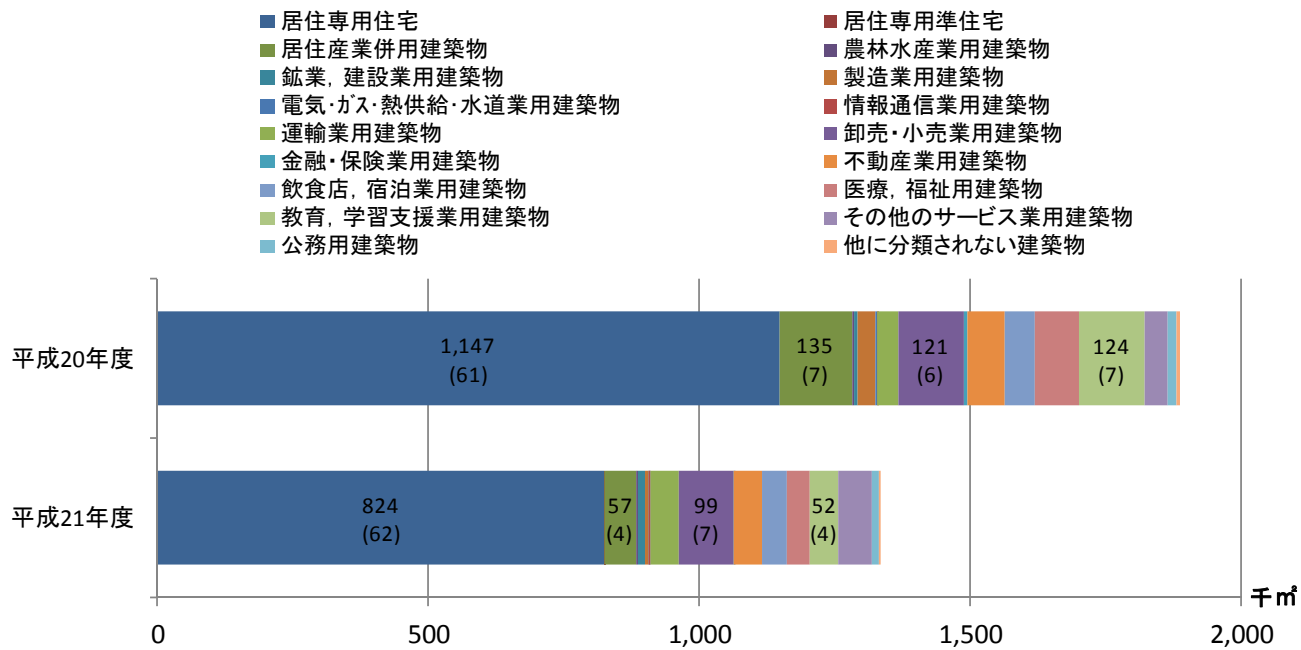
上段：床面積 (ha) 下段：構成比 (%) 資料：福岡市統計書（平成22年版）

図 課税対象建物用途別床面積



資料：「大都市比較統計比較年表」 注：共同住宅には長屋、その他を含む。

図 大都市における一戸建住宅と共同住宅の割合



資料：福岡市統計書（平成22年版）

図 着工建物の用途構成

(6) 気象状況

① 気温

- ・平成 21 年データでは、福岡市の年平均気温は 17.3℃である。夏季の最高気温は約 35℃、冬季の最低気温は-1.2℃である。
- ・平均気温の平年値（1981-2010）は 17.0℃であり、全国的にも比較的温暖であることがわかる。
- ・年間降水量(平成 21 年)は 1,632mm である。このうちの 1/3 程度が 6～7 月に集中している。

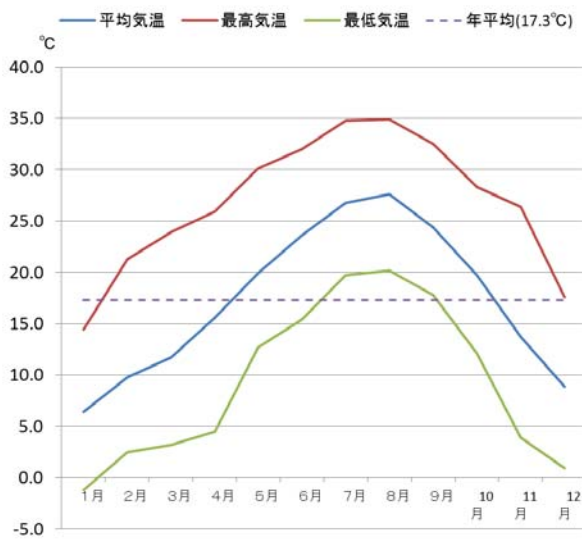


図 福岡市の気温(平成 21 年)

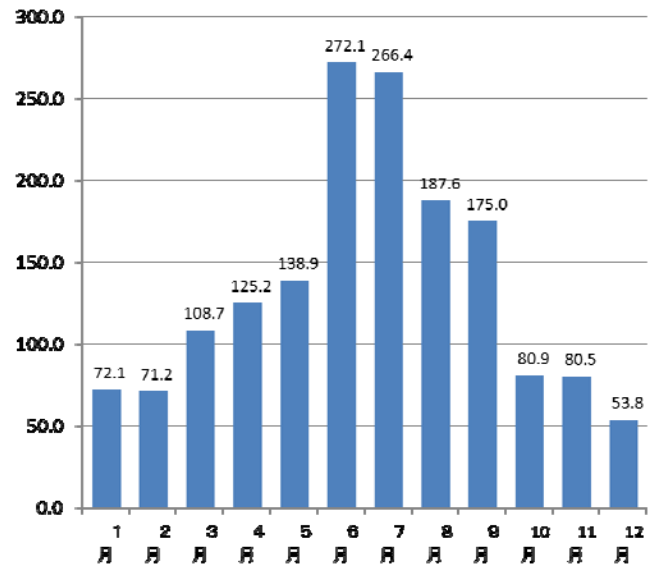
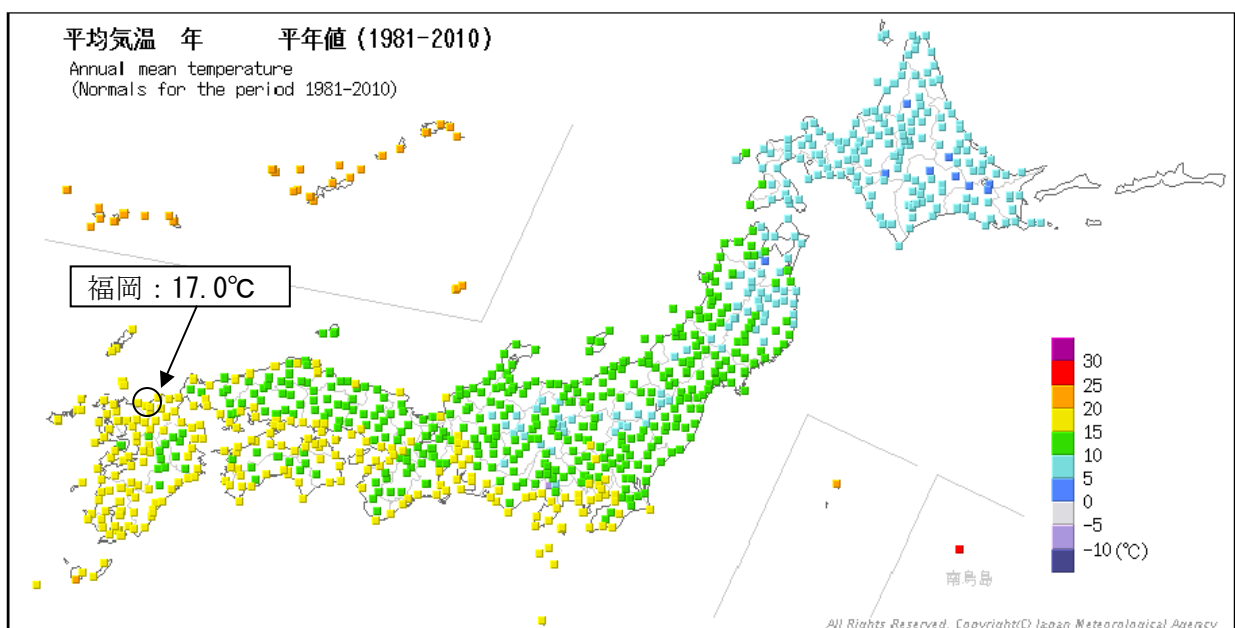


図 福岡市の降水量(平成 21 年)

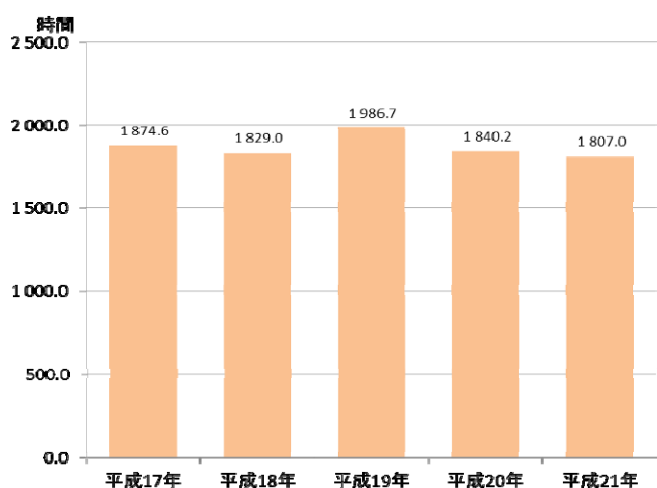


資料 : 気象庁HP

図 平均気温 平年値 (1981-2010)

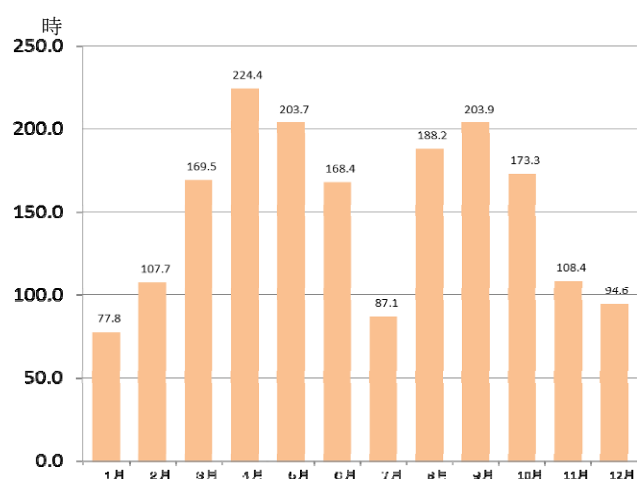
②日照時間

- ・過去5年間の年間日照時間をみると、約1,800時間～約2,000時間である。平成21年データから月別日照時間をみると4月、5月、9月が多く、それぞれ200時間を超えている。
- ・年間を通してみると、東京や大阪と比べると福岡市の日照時間は冬季に短い。
- ・全国的にみると、太平洋側に比べて日本海側の地域のほうが日照時間は少ないが、福岡市の立地する九州北部地域は、日本海側であるにもかかわらず比較的日照時間が多い地域となっている。



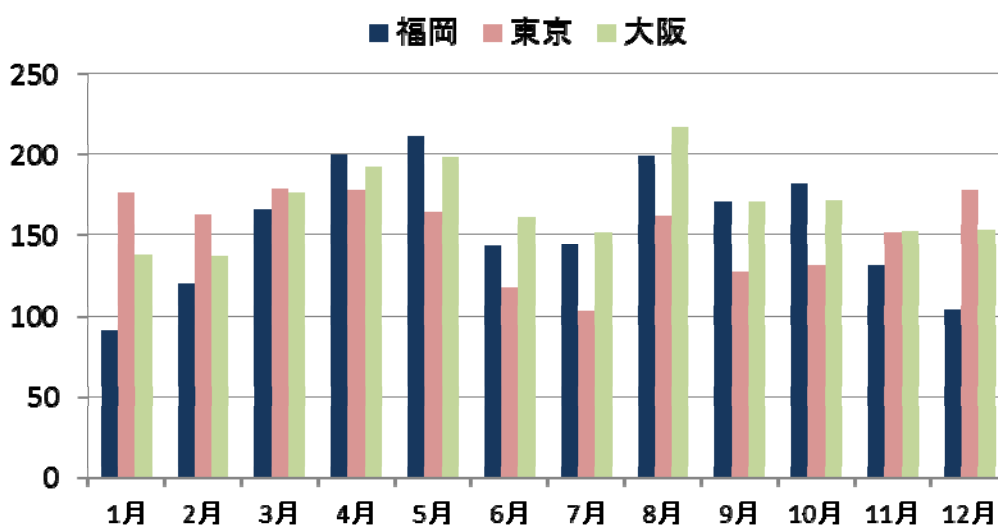
資料：気象庁資料

図 年間日照時間



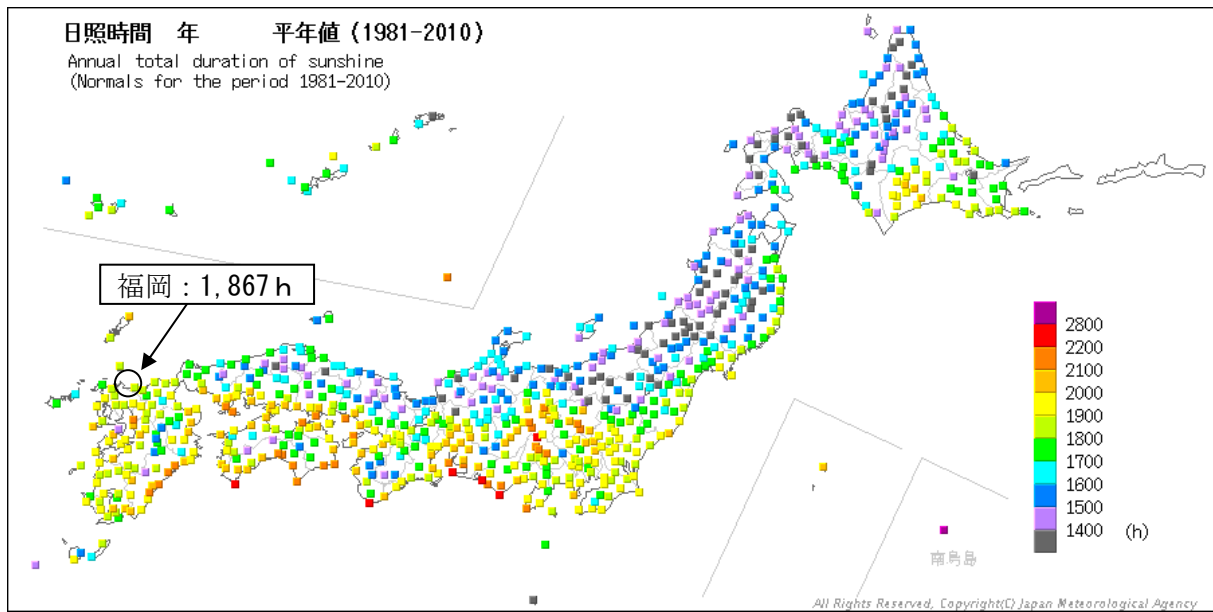
資料：気象庁資料

図 月別日照時間（平21）



資料：気象庁資料

図 月別日照時間の比較（2005-2009年の5年間の平均）

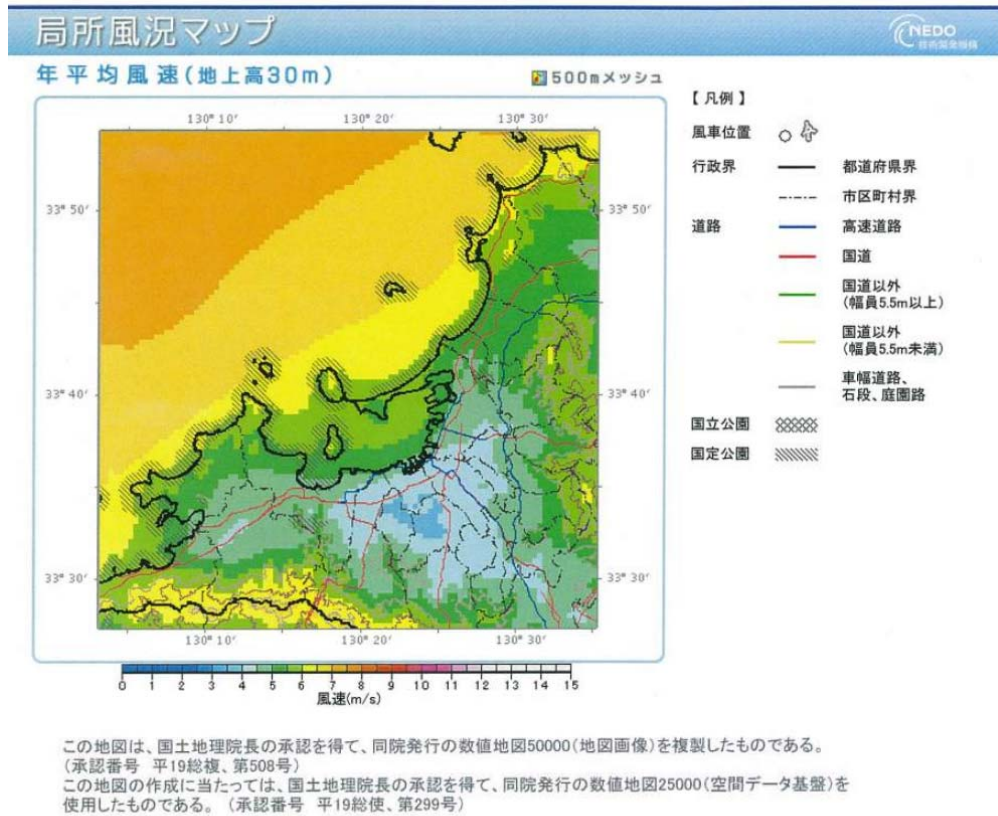


資料：気象庁資料

図 全国の日照時間

③風況

- ・福岡市内では、大型風車の立地が可能な風力（一般的には地上30m高で年平均風速6m/s以上）が得られる場所は少ない。
- ・年平均風速は、市街地に比べ湾内洋上のほうが相対的に強い。



【出典：「局所風況マップ」、NEDO】

図 局所風況マップ

(7) まちづくり

①現在進められているまちづくりプロジェクト

- ・福岡市では、新たな拠点地区として、知性と感性を生かした創造都市をめざして、先進的モデル都市アイランドシティや九州大学が移転する西部地域、天神・博多駅周辺の都心部等において、環境との調和を図りながら商業業務機能、研究機能、住機能等の整備を進めている。
- ・現在すすめられている代表的なまちづくりプロジェクトを下図に示し、そのプロジェクトの概要を次ページ以降に示す。



図 福岡市周辺図（まちづくりプロジェクト位置図）

○アイランドシティ

先進的モデル都市 [アイランドシティ]

アイランドシティは、博多港の港湾機能強化、環境と共生する未来都市のモデルとして誕生した都市空間です。環境を大切にするまち福岡市をリードする先進的な都市づくりを進めています。



■ CO₂ゼロ街区

「まちづくりエリア」北側に位置する市5工区の最初の開発エリア（戸建住宅地区、約6ha、平成24年度にまちびらき予定）は、国内トップレベルの低炭素型都市を目指す市5工区全体のまちづくりを先導するモデル地区として位置づけ、最新技術の集中的な導入等により街区全体でCO₂排出量を理論上ゼロにする「CO₂ゼロ街区」の形成を目指しています。



<CO₂ゼロ街区のイメージ>

出典) 住宅用地事業者 (代表事業者: 積水ハウス(株)) 資料

図 アイランドシティにおけるまちづくりー1

○九州大学学術研究都市

九州大学移転にあわせた西部地域の新たなまちづくり [九州大学学術研究都市]

移転が完了する平成31年には18,700人の学生や教職員が集まるこの新しい拠点地域に、商業・行政サービス機能や研究開発機能などの導入を図り、九州大学学術研究都市づくりを進めています。



●九州大学直近 (元岡地区・桑原地区)

福岡市産学連携交流センターを拠点施設として、研究開発機能の集積や学生向け住宅などの供給を進めます。

福岡市産学連携交流センター

九州大学と企業等の研究開発部門が入居し、産学連携による研究開発等に取り組んでいます。(元岡地区)



ダイハツ九州の設計・開発拠点

車体や内装などの大規模な設計・開発拠点が開設される予定です。(元岡地区)

●九大学研都市駅周辺

駅前広場や幹線道路の整備、住宅の供給など、大学のまちの玄関口にふさわしい市街地整備が進行中。



地域交流センター

西部地区における行政サービス等の充実を図るため、今宿出張所と図書館を併設し、平成22年夏頃開館。

図 九州大学学術研究都市におけるまちづくり

○都心部 (天神・博多駅地区)

都心部のまちづくり

天神・博多駅周辺の都心部では、企業、行政などが共働して、ゲートウェイ機能の強化や再開発を行い、機能強化と魅力づくりに取り組んでいます。

●新・博多駅周辺のまちづくり (陸のゲートウェイ)

九州新幹線全線開業に向け、新・博多駅ビル(2011年完成予定)建設、駅前広場の整備などが進んでいます。



●渡辺通・春吉地区のまちづくり

天神地区と近接した魅力ある次世代のビジネス拠点の形成をめざし、まちづくりが進められています。

エリアマネジメントの推進

都心部エリアの企業、NPO、住民、行政など多様な主体が協力して、にぎわい創出、安全安心、街の美化などまちづくり活動に取り組むエリアマネジメントを推進しています。

We Love天神協議会 (天神地区) 平成18年設立 約100社・団体	 憩いの空間づくり
博多まちづくり推進協議会 (博多駅地区) 平成20年設立 約110社・団体	

都心部の容積率特例制度

環境・安全安心などのまちづくりへの貢献度に応じて、容積率を緩和(最大400%超を加算)し、民間活力を引き出しながら、都心部の機能強化とさらなる魅力づくりに取り組んでいます。

図 都心部におけるまちづくりー1

**天神明治通り地区まちづくり協議会
(天神明治通り地区)**
平成20年設立 約34者

■設立目的

- ・地区の一体的な建替え更新期を迎えた天神明治通り地区において、九州・アジア新時代の交流拠点といった都市像や、環境、安心安全、共働など、今後求められる都市づくりの視点を踏まえながら、持続可能な都心づくりを推進

■構成

- ・会長（西日本鉄道）、副会長（九州電力、福岡銀行）、正会員、特別会員ら計34者。

■活動概要

- ・H20年度：グランドデザイン（まちの将来像）の作成
- ・H21年度：実現方策の検討等
- ・H22～23年度：地区計画等の策定に向けた取り組み、地下ネットワーク、歩道整備の検討

■グランドデザインの概要

- ・空間整備の方針（全体の骨格）



- ・持続可能な発展を可能とする「街の共用部」

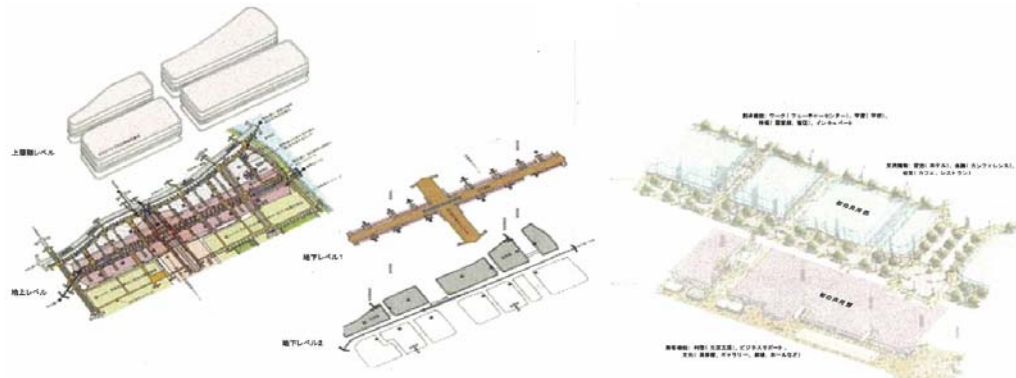


図 都心部におけるまちづくりー2

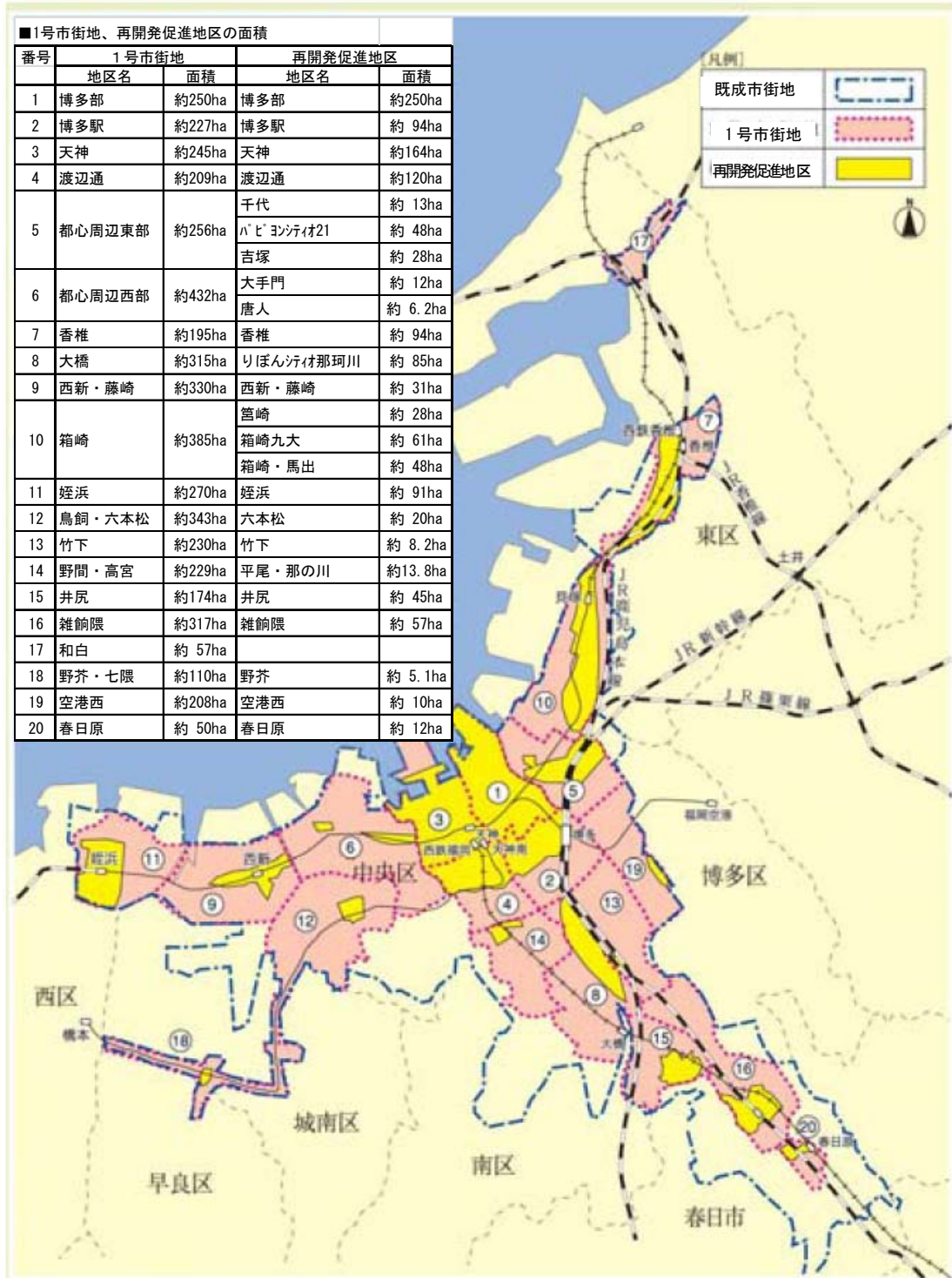
○シーサイドももち



図 シーサイドももち地区のまちづくり

②再開発方針（1号市街地、再開発促進地区）

- ・福岡市では、計画的な再開発が必要な市街地として、20地区が1号市街地に指定されている。
- ・また、1号市街地のうち、特に再開発の促進すべき地区として、都心部や主要駅周辺等では再開発促進地区が定められている。特に、都心部では面的に再開発促進地区に指定されており、①で述べたような都心部のまちづくりが今後も広がっていくことが想定される。



出典：福岡市都市計画課資料

図 福岡市の再開発方針